えだまめ・トンネル

東葛飾農林振興センター

1　地区名（集団名）

野田市（ＪＡちば県北旭出荷組合）

2　栽培戸数、面積、収穫量又は出荷量、出荷先又は販売方法

⑴　栽培戸数　16戸

⑵　栽培面積　310.5ａ

⑶　収穫量又は出荷量　19ｔ

⑷　出荷先又は販売方法

卸売市場（東京青果、浦和中央青果）を通じ、都内及び市場周辺の量販店へ販売

3　ちばエコ基準達成状況

区　　分	実施状況	ちばエコ基準
化学合成農薬(成分回数)	３回	３回
化学肥料（窒素成分量）	1.44kg/10ａ	2.5kg/10ａ

4　事例のあらまし

野田市は、えだまめの栽培面積235ha、出荷量2,000ｔであり、全国有数の産地となっています。

こうした中、ＪＡちば県北旭出荷組合では、市内でも最も早くエコファーマーを組合員全員で取得し、環境にやさしい農業に取り組んできました。更に一歩進め、生産履歴の開示による安全・安心農産物の生産を目指し、平成17年度に「ちばエコスピードアップ事業」による栽培方法の検証を行い、「ちばエコ農業産地」の指定を受け、平成18年度から「ちばエコ農産物」の栽培に取り組んでいます。

なお、栽培は「統一栽培暦」に基づくとともに、堆肥の投入を主体とした土づくりを組み入れるなど持続的な農業を実践しています。

5　背景・動機

野田市のえだまめ栽培は、昭和20年代の後半から、自家用味噌づくりのための大豆栽培からの転換で始まりました。その後、えだまめ用の品種を取り入れ最初に栽培を開始したのは、このＪＡちば県北旭出荷組合の前身の組合であり、その後、市内全体へえだまめ栽培は広がりました。近年、転作作物の一つとして地方在来のえだまめ品種が導入され、全国的に生産量は増加傾向にありますが、面積235ha、出荷量2,000tを誇る野田市

のえだまめは、全国有数の産地となっています。

市内の主要なえだまめ生産組織の一つである、ＪＡちば県北旭出荷組合は、市内でもいち早く「ちばエコ農業産地」の指定を受け、平成18年度より「ちばエコ農産物」の栽培に取り組みました。このきっかけは、組合員全員の合意でのエコファーマーの取得による環境にやさしい農業の実践と、出荷形態を束から袋へ、出荷市場を東北から東京へ変更し、積極的に販売に取り組む意欲が強かったことです。

このため、出荷組合の役員、農協や全農千葉県本部等の関係機関で協議検討を重ね、えだまめ産地として更に先進的な取り組みとして、自然環境にもやさしい安全・安心農産物生産・販売を行うこと、栽培履歴を記帳し開示することを目指し、ＪＡグループ千葉の「もっと安心農産物」と併せて「ちばエコ農業」に取り組むこととしました。さらに、「ちばエコ農産物」の認証とともに、ブランド化を目指し「なつみ（夏味）」の愛称で販売を開始しています。

ちばエコ生産ほ場には
「生産ほ場表示板」を掲示

ＪＡちば県北旭出荷組合の
皆さんが生産する
枝豆「なつみ（夏味）」ブランド

6　栽培方法

(1)　土づくり

せん定枝や刈草を原料とし、野田市堆肥センターで製造される完熟堆肥を施用しています。また、えだまめは窒素分に敏感なため、堆肥は前作物の栽培時に施用しています。

(2)　肥　　料

肥料は、従来からの落花生化成に替え、有機配合肥料を使用し、化学肥料の施用量をちばエコ基準以下に抑えています。

(3)　被覆栽培

病害虫の被害軽減と早期出荷のため、トンネル・マルチ栽培を行っています。また、後半の７月出荷については、雑草対策としてグリーンマルチ栽培を導入し、化学合成農薬の使用量をちばエコ基準以下に抑えています。

ア　栽培管理

作　業　名	実　施　年　月　日
前作(ほうれんそう)収穫終了	平成17年11月30日
播　　種	平成18年３月上旬～４月上旬
耕起・施肥	３月中旬～４月中旬（定植５日前）
定　　植	３月中旬～４月下旬（は種後15～20日）
病害虫防除	３月下旬～（定植後）
収穫開始	５月下旬
収穫終了	６月下旬

イ　使用資材

（ア）土づくり・施肥等　　（10ａ当たり）

使用銘柄（N：P：K）	実施年月日	施用量	全　N	化学N
完熟堆肥（剪定枝等）	前作作付前	1～2ｔ		
枝豆くん505（５：10：５）	作付前	120kg以下	6.0kg	1.44kg
苦土重焼りん	作付前	60kg		
合　　計			6.0kg	1.44kg

（イ）病害虫・雑草防除等

使　用　農　薬	対象病害虫	実　施　年　月　日	
①スミチオン乳剤	カメムシ類、マメシンクイガ	収穫21日前まで	①～④のうちから３剤以内
②トレボン乳剤	カメムシ類、マメシンクイガ	収穫21日前まで	
③アグロスリン乳剤	カメムシ類、マメシンクイガ	収穫７日前まで	
④アファーム乳剤	ハスモンヨトウ	収穫３日前まで	

（統一栽培暦より）

７　今後の展望等

野田市役所では、市内農業者の環境にやさしい農業の取組を支援するため、堆肥センターを設置し、剪定枝や刈草を原料とした堆肥を提供しています。また、市の方針として「ちばエコ農業」への取り組みや「エコファーマー」の取得を積極的に推進しています。この結果、新たに１つの生産組織が「ちばエコ農業産地」の指定を受け、平成19年度から「ちばエコ農産物」（ＪＡグループ千葉の「もっと安心農産物」）の生産に取り組むこととなりました。

市内にえだまめ栽培が広がった時と同様、えだまめ栽培発祥の地のＪＡちば県北旭出荷組合の取り組みを基点として、市内各生産組織に波及することが期待されます。